

2014年9月25日

各 位

会社名 株式会社キャンパス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号: 4575 東証マザーズ)
問合せ先 取締役最高財務責任者 兼 管理部長
加登住 眞(電話 055-954-3666)

**抗癌剤候補化合物CBS9106の作用メカニズムに関する論文が
Molecular Cancer Therapeutics誌に掲載されました**

米国の著名な論文誌『Molecular Cancer Therapeutics』^{*1} オンライン版に、当社が開発中(前臨床試験完了段階)の抗癌剤候補化合物CBS9106^{*2}の作用メカニズムに関する論文が掲載されましたので、お知らせいたします。

抄録 (英文テキスト:どなたでもご覧いただけます)

<http://mct.aacrjournals.org/cgi/content/abstract/1535-7163.MCT-14-0064>

本文 (英文PDF:登録(有料)が必要です)

<http://mct.aacrjournals.org/content/early/2014/09/24/1535-7163.MCT-14-0064.full.pdf+html>

◇本研究の内容と意義

抗癌剤候補化合物CBS9106の標的分子である核外輸送因子CRM1^{*3}は、さまざまな癌抑制因子等を含む蛋白質等の核外輸送を担うこと、さらに、さまざまな癌腫で過剰発現していることから、新規抗癌剤開発の有望なターゲットと考えられています。

CBS9106の作用メカニズムについては、既に当社の研究グループが、CRM1分解を介して細胞周期およびアポトーシスを誘導し、抗腫瘍効果を示すことを明らかにしていました(2011年8月17日付当社公表資料『CBS9106作用メカニズムに関する論文のBlood誌への掲載について』をご参照ください)。

このたび論文発表した研究では、さらに詳細な作用機序の検討を行い、このCBS9106によるCRM1分解が、代表的な蛋白質分解経路ユビキチン・プロテアソーム系の主要な経路である Neddylation を介したものであることを見出したものです。

CBS9106については、既に前臨床試験を完了した開発段階にあり、財務状況・提携パートナー獲得状況等を見据えながら、早期に臨床第1相試験を開始することを目指しています。

当社は、このたび解明した作用メカニズムに基づくCBS9106の特徴を今後の臨床試験計画の策定に活用していくほか、CBS9106提携獲得活動に活用してまいります。

なお、本件による2015(平成27)年6月期業績への影響はありません。

以上

《用語解説》

※1 Molecular Cancer Therapeutics

同誌は、米国癌学会(AACR: American Association for Cancer Research)が出版している、2001年創刊の学会誌です。

癌治療法に関する基礎研究を専門分野とする、著名な論文誌です。

※2 CBS9106

当社独自の細胞表現型スクリーニングを用いて創出した抗癌剤候補化合物です。

CBS9106は、核外輸送因子CRM1を可逆的に阻害し、多発性骨髄腫を含む幅広い癌細胞株に対して細胞周期停止およびアポトーシスを誘導する低分子化合物であり、これまでに実施した培養細胞による試験において、既存のCRM1非可逆的阻害剤であるレプトマイシン B に比べて毒性が低いことが明らかになっています。さらに、モデル動物を用いた試験においても、経口投与により腫瘍増殖抑制及び生存期間延長効果を示すとともに、毒性が低いことを示唆するデータが得られています。

当社は、CBS9106を最先行化合物CBP501に続く2つめの開発パイプラインと位置づけ、現在は前臨床試験を完了した段階にあります。

※3 CRM1 (Chromosomal Region Maintenance 1)

核外輸送シグナル(NES)を持つ輸送基質(蛋白質、mRNA-蛋白質複合体)を核から細胞質へ輸送する役割を担う、細胞内因子の一つです。

CRM1によって輸送される基質には、癌の抑制に働く因子(I κ B、p53、FOXOs)が含まれており、CRM1阻害剤は、これらの核外排出を阻害することでこれら因子の活動の場である細胞核内への蓄積をもたらし、抗腫瘍効果を示すと考えられています。